

事例報告

あかつき苑（江東区）

あかつき苑
施設長 長尾 朋絵

施設概要

- 入居者100名のユニット型施設
- 同一建物内に、同グループ・同法人が運営するクリニック、通所リハビリテーション、介護専用型ケアハウス、都市型軽費老人ホーム、地域の方が利用する地域交流サロン、健康増進スペースなどがある複合施設
- 江東区の東端に位置し、施設近くには荒川が流れている

計画運休について①

- 2019年10月11日、台風19号の接近に伴い、公共交通各社が計画運休を実施すると発表
- あかつき苑の最寄り駅がある都営新宿線は、千葉方面の大島駅から本八幡駅区間が運休となり、職員寮（最寄り駅は津田沼駅）から通勤する職員を含む多くの職員が利用することから、大きな影響を受けることが予測された
- ユニットリーダーが中心となり、近隣に住んでいたり、自転車等で通える範囲の職員（常勤・非常勤を問わず）をピックアップし、2～3日間は対応できるよう想定し勤務調整した

計画運休について②

- ユニットリーダーが職員の住んでいる場所や通勤手段、家庭の状況等を把握していたので、比較的スムーズに対応することができた
- 職員寮の最寄り駅である津田沼駅は計画運休終了後も大変な混雑となったため、職員寮から出勤する職員は出勤が困難な状況が続き、しばらくは混乱が続いた
- 計画運休が長引いていたら、対処できていたかはわからない

避難者の受入れについて①

- あかつき苑は二次避難所に指定されている
- 台風19号通過当日（10月11日）、10月12日は区役所からの防災無線で「3階以上の建物に避難してください」とのアナウンスがあり、地域住民の方から「避難所の場所を教えてほしい」等の問合せがあった
- 夜になると、入居者のご家族、クリニックや通所リハビリを利用されている高齢者の方などが「家族が心配なので一緒に過ごさせてほしい」「避難させてほしい」と来所
- 結果的に13名の避難者を受け入れた

避難者の受入れについて②

○避難された方の声

- ・「一時避難所の環境では、とてもじゃないけどいられない」
- ・「転倒して危ないと感じた」
- ・「避難するならば、日ごろから知っているところがよいと思った」

○入居者や職員分の食料等、3日分の備蓄があったが、地域住民の方の分はなく、寝てもらうためのベッドや毛布もない状況

○建物は6階建てだが、避難所として提供できる場所は、「1階にある地域交流サロン」で「3階以上」に避難してもらうことは難しい状況

○そのことを避難された方に伝え、確認のうえで受け入れた

避難者の受入れについて③

- 地域交流サロンに余っていたベッドマットを床に敷き、少しでも休んでもらえる環境をつくったが、ベッドでないと休むことが難しい方もおり、急遽通所リハビリで使用しているベッドを移動するなど対応に追われた
- 数家族が同じ場所で一晩を過ごすことになったが、パーティション等も十分ではなく、プライバシーの確保が困難であった

避難者の受入れについて④

- 入居者のご家族は各入居者の居室で休んでいただいた
- 食堂で使用しているソファを居室内に運び入れ、一晩を明かしていただいた
- 看取りのご家族が最期のときを過ごすために宿泊することもあったため、比較的スムーズに対応できた
- 翌朝 9 時頃までには全員が帰宅した

今後の課題

- 日頃からのユニット間の交流や情報収集
- 公共交通機関の計画運休等、様々な場面を想定した対応の必要性
- 行政との連携
- 地域住民による災害救助隊（自主防災組織）との連携
- 地域住民等の避難場所の確保（1・2階の入居者約50名に3～6階へ避難いただき、さらに地域の避難者の方を受け入れるシミュレーション）
- 備蓄品の保管場所（1階倉庫⇒各ユニットや4階倉庫へ移動）
- 新型コロナウイルス対策を踏まえた避難者の受入れ